

甲奴郡酪農組合

12/7 東部事業所

精子の身になって 雌雄判別精液の取り扱いが「鍵」を握る

甲奴郡酪農組合(伊達薫組合長)は、事業計画に「広酪との協調」を掲げていることから、研修会を担当する松本芳氏は、家畜改良事業団岡山種雄牛センター・小園勇輔主任を講師に招き、広酪が推進する「雌雄判別精液の有効活用」をテーマとした勉強会を企画した。

小園氏からは、「広酪から助成があるから雌雄判別精液を安価に入手される場合があるが、その取り扱いが正しく理解されていないことに大きな問題がある。その上で、融解方法が『通常精液』と『選別精液』では温度も時間も違うことから、適切な取り扱いが受胎率の向上につながる。雌雄判別精液の活用にあたっては、精子の気持ちになって融解にかかる一連の手順や基本を再確認するのが大切。これが守られれば受胎率は向上し確実な後継牛の確保が期待出来る。その余力をF1やE1に仕向けることで酪農所得の増大が望める。」とアドバイスを受けた。

勉強会は、資料やスライドでの説明を一時程度受け、昼食をとりながらの意見交換では活発な質問や失敗談が相次ぎ、三時間に及ぶ勉強会は和気あいあいの中で、次年度に希望の持てる勉強会となった。

芸北酪農部会

12/14、大山

粗飼料高騰 「自給粗飼料生産に意欲」

芸北酪農部会(斉藤正和会長)は、研修会を開催した。斉藤会長は挨拶で「厳しい酪農情勢から、去年は1戸が廃業された。厳しさに負けず残された4戸は団結して来年も頑張ろう」と述べた。

その後、懇親会では一年を振り返り、粗飼料高騰から自給粗飼料生産に向けた話題も飛び交う中、「頑張りたい」との意気込みが聞かれた。



あきたかた酪農振興会

12/7 美土里町「神楽門前湯治村」

明るい未来を目指して 厳しい時こそ英知を!

あきたかた酪農振興会(泉秀利会長)は研修会を開催した。開会に先立ち、泉会長は「畜産業界にとつて今年も大変厳しい年だった。明るい兆しの見えない中で、行政・広酪の支援を受けながら前進していきたい。来年の会員皆様のご健康とご多幸を



祈りする」と述べた。研修会では隅屋寒三専務(広酪)が講師となり、「最近の酪農情勢」と題して講演し、「厳しい時こそ英知を絞って邁進して行こう」と会員らに呼びかけた。続いて懇親会に移り、森本氏(JA西日本くみあい飼料㈱)が「今年度は、配合飼料等の値上がり基調で厳しい一年であった。来年は酪農家の皆さんに安い商品が提供出来るように頑張りたい」と乾杯の発声を行い、一年の厄払いの如く楽しい一時を関係者と共に過ごした。

千代田町酪農協議会・大朝酪農振興会

12/3 専教寺 12/25 円立寺

酪農経営に携わった愛牛に感謝

千代田地区の家畜追悼法要が専教寺で行われ、大朝地区では家畜供養祭が円立寺で行われた。それぞれ地域の畜産農家が参加し、牧場経営に貢献した死亡家畜を弔い、今後の酪農発展を願った。

広酪西部ミルク会

12/13 国民宿舎湯来ロッジ

湯来の湯でリフレッシュ 酪農家自ら消費者にPR



広酪西部ミルク会(砂子靖子会長)は、研修会を開催し15名が参加した。往路の車中では、砂子会長が「この辺りが私の実家です」とバスガイドを務めながら、和やかに会話を楽しみ移動した。

研修会では隅屋寒三専務(広酪)が「最近の酪農情勢」を説明し、「厳しい酪農情勢ではあるが頑張っで戴きたい」とエールをおくった。また、大上会員は「毎年の牛舎周辺の美化運動でサルビアの苗配布が大変嬉しい。生産者自らが消費者に対してしっかりアピールすることも大切では・・・」と会員らに呼びかけた。

千代田町酪農協議会

12/7 養老温泉

山岡さん「お疲れさま」 切磋琢磨し 飼料高騰を乗り切る

また、長年に亘り酪農業にご尽力され、この十月をもって廃業された会員の山岡秋人さんを慰労した。



千代田町酪農協議会(柿原徳則会長)は、研修会並びに親睦交流会を開催し二十一名が参加した。研修会では中山篤志課長(広酪事業推進課)が「広酪の上期決算状況」と「生乳生産状況」を報告し、生乳生産への協力を呼びかけた。交流会では、竹下正彦町長(北広島町)をはじめ、広島協同乳業の松本龍司社長、酪農関係者らが出席され、今後の酪農発展に向けての意見交換を行った。会員からは「飼料等の値上げ基調から乳価の値上げが無ければ、酪農家は大きなダメージを受ける」など不安視する意見もあったが、「各団体に協力を呼びかけ、

豊平町酪農振興会

12/11 豊平どんぐり村

「頼もしい獣医師」 復職を歓迎

た。その後、三橋卓實職員(広酪西部事業所高宮ミルクボーイ)が「最近の酪農情勢」を説明し、「生乳生産が大きく低下する状況にあり、生乳生産量の増加に向けて頑張っで戴きたい」と述べた。また、産休で診療業務を休まれていた石橋朝子技師(山県家畜診療所獣医師)の復職の挨拶で「今後は張り切っで診療業務を行います」との決意に、酪農家からは「頼むぞー」との声援が贈られた。懇親会では、当地区の酪農家で組織する生産組合が飼料稲の生産を大きく担っていることから、来年の生産に向けて建設的な意見が多く飛び交い、和やかに親睦を深めた。



豊平町酪農振興会(泉繁樹会長)は研修会を開催し、会員他十八名が参加した。泉会長は「日増しに厳しさを増す酪農情勢ではあります、会員相互に団結して頑張りますように」と喚起の挨拶を述べた。